

日本が取り組むべき日米防衛協力の課題 —反撃能力、宇宙の安全保障、および南西諸島防衛—

慶應義塾大学法学部
宮岡勲研究会14期生

2023年11月21日

はじめに

2022年末、日本は防衛三文書(①国家安全保障戦略、②国家防衛戦略、③防衛力整備計画)を改訂。同時期、バイデン政権も①、②を改訂。

2023年1月の安全保障協議会における日米共同発表では以下の3点を日米同盟の課題として注目した

- ① 反撃能力
- ② 宇宙での安全保障
- ③ 南西諸島防衛



出典: 毎日新聞<https://mainichi.jp/articles/20230112/k00/00m/030/043000c>

目次・研究の問い

第Ⅰ章 日本の反撃能力と日米防衛協力

日本の**反撃能力運用**において、日本はどのような日米防衛協力を優先するべきか。

第Ⅱ章 宇宙の安全保障と日米防衛協力

宇宙の安全保障において、日本はどのような日米防衛協力を優先するべきか。

第Ⅲ章 日本の南西諸島防衛と日米防衛協力

日本の**南西諸島防衛**において、日本はどのような日米防衛協力を優先するべきか。

出典: Mamor

https://mamor-web.jp/_ct/17553668



第 I 章

日本の反撃能力と日米防衛協力

1-1 米国の統合ミサイル防衛

【現状】

弾道ミサイル防衛BMDの限界

【課題】

経空脅威の広域、高速、多様、複合、極超音速化

【解決に向けた取り組み】

統合防空ミサイル防衛(IAMD)の導入

①敵の策源地に対する攻撃を含む抑止

積極防衛、消極防衛、**攻撃作戦**

②同盟国、友好国のアセットを一体化運用



出典: 日本経済新聞

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA2745K0X20C23A2000000/>

1-2 日本の反撃能力

【反撃能力の定義】

相手からの攻撃を防ぐのにやむを得ない最小限度の自衛の措置として相手の領域において有効な反撃を加えることを可能にする能力のこと

【背景】①周辺国の脅威: 変速軌道、極超音速(スピードの速い)ミサイルの開発

②現在のミサイル防衛では安全確保に限界

【現状】トマホークの提供を含め**スタンドオフ(長距離)能力**の向上に注力

【課題】①情報収集に限界、②実戦経験の不足、③**スタンドオフ能力**の不足

1-3 日本の反撃能力運用における日米防衛協力

1. 米国からの情報提供

①実践経験が豊富な米国からキルチェーンの運用方法を共有

Ex) 合同軍事演習等の開催

②ターゲティングのために、軍事目標の場所等の情報共有

2. 日米でのミサイル開発協力

①迎撃困難なスタンドオフミサイルの性能向上（現在はスピードが遅い）

②次の段階として12式地对艦誘導弾の技術開発等、国産ミサイルの開発協力

出典: 日経新聞 <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA141AL0U3A110C2000000/>



第Ⅱ章 宇宙の安全保障と日米防衛協力

2-1 米国の宇宙戦略

【現状】

- ①米宇宙軍(2018)・宇宙コマンド(1985)の創設
- ②衛星を使い他国の監視や誘導兵器の運用をしている

【課題】

衛星が破壊された際の対応策

【解決に向けた取り組み】

- ①「分散型アーキテクチャ」:複数の衛星で1つの機能を担うシステム
- ②宇宙状況監視(SSA)能力の整備

2-2 日本の宇宙戦略

【現状】

- ①「宇宙からの安全保障」: 宇宙システムの利用拡大へのアプローチ
情報収集(商用衛星)、早期警戒衛星、情報通信、衛星測位、宇宙輸送
- ②「宇宙における安全保障」: **宇宙状況監視(SSA)**能力の構築

【課題】

- ・ 米国の宇宙システムへの依存が大きい

【解決に向けた取り組み】

- ・ 他国への依存をせずに宇宙へのアクセスを確保する
きらめき3号の打ち上げ、基幹ロケットの運用・強化、SSA能力の整備

2-3 宇宙の安全保障における日米防衛協力

1. 「宇宙からの安全保障」に関連する日米防衛協力

衛星の技術協力を優先。日本の準天頂衛星の技術をアメリカに提供。

2. 「宇宙における安全保障」に関連する日米防衛協力

衛星システムの強靱性追及を優先。「衛星コンステレーション」を参考に。

→日米で、衛星の互換性と相互運用性を確保。

3. 安保五条に関連する日米防衛協力

「どのような場合に安保五条が発動するのか」を明確にすることを優先。

→日米間の協議、共同訓練の推進。

出典:防衛省統合幕僚監部

<https://www.mod.go.jp/js/photo/photo-exercise.html#photo-exercise21>



第三章

日本の南西諸島防衛と日米防衛協力

3-1 米国の南西諸島防衛

【現状】

- ・中国の海洋進出による、米海兵隊の目指すべき戦力デザインの策定

【課題】

- ①遠征前方基地作戦構想に必要な補給手段の確保
- ②競合する沿岸環境での戦術的機動性

【解決に向けた取り組み】

- ①水陸両用艦の小型版である、沿岸戦闘艦35隻の製造
- ②無人水中機利用、装備品が製造可能な可搬式ラボの導入(3Dプリンター)

3-2 日本の南西諸島防衛

【現状】

- ①有事の際に航空優勢、海上優勢を中国軍が握る可能性あり
- ②水陸機動団第3水陸機動連隊(仮称)を新編し、防衛態勢強化

【課題】

- ・水陸機動団の島嶼上陸に必要な海上輸送力が、本格的な整備途上

【解決に向けた取り組み】

- ①中型級船舶、小型級船舶取得のための必要経費計上(102億円)
- ②民間資金の活用・運用による船舶の確保(車両及びコンテナの大量輸送)

3-3 南西諸島防衛における日米防衛協力

1. アメリカから日本への支援

- ① 対外有償軍事援助を通じた、自衛隊への武器提供
- ② 日本の武器追加購入のための、直接商業販売の承認

2. 日本からアメリカへの支援

- ・ 自衛隊の船舶(中型級船舶)導入による遠征前方基地作戦構想の補完

3. 共同訓練・演習

- ① **日米共同統合演習**(実働演習キーンソード、指揮所演習キーンエッジ)
- ② 第31海兵機動展開隊等との日米共同訓練

おわりに

1. 日本の反撃能力運用において、日本はどのような日米防衛協力を優先すべきか

- ・日米間でのミサイル発射に関する情報共有、ミサイルの共同開発の推進。

2. 宇宙の安全保障において、日本はどのような日米防衛協力を優先すべきか

- ・衛星の技術協力、衛星システムの強靱性追求、日米間協議・共同訓練の推進。

3. 日本の南西諸島防衛において、日本はどのような日米防衛協力を優先すべきか

- ・日米相互の支援による装備品、輸送力の強化と日米共同統合演習・訓練の推進。